

は～とふる 日光

男女共同参画社会って？

ことばにすると、
なぜか堅苦しく、重い
感じになってしまふけれど、
ほんとうは、もっと身近に
あって、人としてのやさしさが
あふれてくる社会の
ことです。

いまから、はじめましょう。
そう、わたしから…
“思いやりをもつて”

は～とふる日光では、昨年度「家族の絆」を通して、男女共同参画について取組み、取材してきました。今号は、事業所・団体などから見た、男女共同参画の取組みを取材しました。

仲間づくりの一歩

～栃木県男女共同参画地域推進員
日光市連絡会を取材して～

活動を伺いました

寸劇や紙芝居をとおした『男女共同参画社会づくり』についての交流会を実施。
「仲間づくりから家庭・地域へと発信し、“なぜ、私が”というこだわりや環境を少しづつ変えることがアクションの一歩では・・・。」
というメッセージをいただきました。



推進員さんの「男女共同参画社会づくりフォーラム in 日光」会場でのアンケート調査結果から

●質問：何と呼びますか？

- ・あなたは配偶者を・・・
(1位 お父さん・2位 名前・3位 お母さん)
- ・あなたは配偶者を友人・知人には・・・
(1位 主人・2位 夫・3位 家内)
- ・あなたは友人・知人の配偶者を・・・
(1位 ご主人・2位 奥様・3位 旦那さん)

●何とおりもあるけれど・・・

わが家のパートナーにやさしさをこめて
「〇〇〇さん」と呼びかけてみては?
(ちょっと、はずかしいかも)



発信を“キャッチ”

たとえば・・・

- できるときに「今が、そのとき」
ママは残業で遅くなります。
今日の保育園のおむかえはパパです。
- できること「それは、思いやりから」
夕食は僕がつくるよ。
後かたづけは私がするわ。

のような・・・

時代にフィットした
気づき・学びが必要のようです。

.....スイッチを切りかえて
求められていることは、
私たちもチェンジすること!
まず、思いを言葉にのせて
家庭での
さりげないキャッチボールから。
“Yes, We can”

「一人ひとりのアクションを集めて大きな力とし、社会的活動を進めよう！」を目標に平成19年に発足。

1年目はチラシを作成、「男女共同参画社会づくりフォーラムin日光」で配布。

2年目はフォーラム会場の皆さんの協力を得てアンケート調査を実施。

回答の結果を足がかりに、「身近なところから活動を推進したい」との熱い思いをお聞きしました。

多様な生き方のできる社会



～アメリカの社会をのぞいて～

女性の社会進出、子育てとの両立、女性の管理職の登用など、男女共同参画社会を目指すにあたってよく耳にする言葉です。それらの言葉を聞くたびに悲しみにも似た違和感をおぼえる人もいるのではないかでしょうか。

今回、女性リーダーの育成を目的とした海外研修に参加した方たちのグループ「とちぎつばさの会 日光支部」に取材を申し込んだところ、昨年研修に参加した五十嵐至子さんに、お話を伺う機会をいただきました。

たくさんのお話の中から、心に残った「働く母親のためのベスト10」で全米No.1に輝いた製薬会社について、紹介させていただきます。

1つ目の感動

この会社では、仕事の契約時、働き手の方から働き方の提示をします。

例えば

ジョブシェアリング

2人の働き方が一致すれば、
2人で1つの仕事をする。



子どもの体調が悪いときに
休みやすい。



のと失
理いい能
うたな
く人材
大きい側
いを

例えば

自宅での仕事

企画書の作成などを手がける人は、自宅で作成し
メールでやり取りをして、会議等もテレビ電話で参加する。

2つ目の感動

女性の管理職の割合にこだわらない

Q 「女性の管理職の割合は？」という質問に経営者は、

A 「能力主義だから、そんなこと考えたことがない」と答えました。

・・・この言葉に、取材した私達は感銘しました。男女共同参画の目安として、女性の管理職の割合が取り上げられることが多い日本とは、大きく違うなと。



私が、お茶を入れようとした時「そんなこと女
の人がしなくていい」と言われたことがあります。私がお茶を入れるのが自然だったから入れ
ていたのだけれど・・・

本当に大切なのは、男女共同参画という言葉が
なくても、お互いを思いやることができ、尊重し
合える社会だと思う。

五十嵐さんは、8年前から子どもの居場所づくりとして「スマイルハウス」の運営に携わっています。
また、大沢公民館でも、「放課後地域子ども教室」と称して子どもたちが地域の方たちと触れ合う場所
を提供しています。

男女共同参画推進条例に基づく制度の紹介

日光市では、今年4月1日に男女共同参画推進条例が施行され、次のような申出ができるようになりました。

男女共同参画の施策等に対する意見の申出

市の施策等のうち…

男女共同参画社会づくりを進める上で制度・施策のあり方や
男女共同参画の推進に影響を及ぼすような取組みについてです。



◆意見等の申出書の提出（窓口：人権・男女共同参画課）

- ※ 申出の用紙は、窓口にお問い合わせください。（市ホームページからもダウンロードできます。）
- ※ 申出書の提出が原則ですが、理由があると認める場合には、口頭で行うこともできます。

男女共同参画推進事業者（市民団体など）の表彰制度

男女共同参画推進のための取組みを積極的に行っている事業者（市民団体など）の表彰を行います。
市内で以下のような活動を行っている事業者・団体の申出・推薦をお待ちしています。
「男女に優しい事業者」を目指しませんか？

- 男女の人権に配慮した働きやすい職場環境づくりのための取組みを行っている。
- 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を支援するための取組みを行っている。
- 性別によらず、個人の能力発揮を促進し、その活用を図る取組みを行っている。

例えば

- ◆ 女性の採用、登用及び職域拡大のための取組みを積極的に行っている。
- ◆ 男性の育児、介護のための休暇取得促進のための取組みを行っている。
- ◆ 仕事と生活の両立を支援するための取組みを積極的に行っている。など

※ 申出のあった事業者（市民団体など）は、調査・審査を経て、結果を通知します。

※ 申出（推薦を含む）の用紙については、市ホームページからもダウンロードできます。



男女が手を取り合っている様子をモチーフにし、互いに尊重しあい、共に歩んでいけたらという願いを込めて、男女共同参画社会基本法制定10周年を迎えるにあたり、内閣府男女共同参画局で作成したシンボルマークです。

《上記制度の問合せ先》
健康福祉部 人権・男女共同参画課
☎ 0288-21-5148
FAX 0288-21-5105
<jinken-danjo@city.nikko.lg.jp>

女性中心の職場から見た 男女共同参画

男女共同参画といふと、とかく女性の仕事や立場が多く取り上げられますが、角度を変えて、女性中心の職場の男性看護師にスポットを当ててみました。

Q 女性の多い職場での心配りや気配りは？

福田さん：女性の患者さんの体を拭いたりすると
きに気を使いますが、それ以外では女性の職場という感覚もなく、和気あいあいと仕事をしています。看護師の職場では、男も女もないですね。

吉田さん：職場全体で違和感はありません。
(取材者一同：……感動……)



市内病院の方々
左から 看護部副部長 原弘子さん
看護部長 吉田美知子さん
看護部 福田佳高さん（25歳男性）

Q 看護師になろうとしたきっかけは？
福田さん：小さい頃小児ぜんそくで入退院を繰り返したときに、看護師になろうと決めました。

Q 夢はなんですか？
福田さん：看護師になる夢はかなったので、次は管理職でリーダーとして働きたいですね。

Q 男性の看護師がいることで、変わったことは？
吉田さん：年々、男性の看護師は増えていますね。男性がいることで職場が和みます。男性看護師は、もはや必要な存在ですね。患者さんの移動など助かることが多いです。

Q 看護師は大変な仕事だと思いますが、家庭での理解はどうですか？
福田さん：まだ結婚していないので、結婚したら、妻の仕事にも協力し合える明るい家庭を作りたいです。
吉田さん：夫が仕事に対して、とても理解してくれています。
原さん：たいへん苦労されて働いている方がいらっしゃいますが、みなさんの家族の協力をいただいています。

看護部副部長の原さんが、「男性看護師は、看護師という職業を選んだ時点では頭の中が整理されています。学生時代から見ていますが、基本的にやさしいです。ですから女性の職場にも溶け込んでいるのだと思います。」とおっしゃっていました。

また、取材者の一人が、福田さんが勤務1年目に実際に病院でお世話をしたそうです。そのときから親切でやさしい看護師だったとのことです。
職場全体がとても明るく、皆さんいきいき働いていました。

次世代につなぐ男女共同参画社会へ

「男女共同参画社会」と一口に言われても、なんだかよくわからない？というあなた!!
家庭内ではもちろんですが、地域活動の関わりもその一つなんですよ。

もっと、身近に感じてみませんか。
学校や教育というと母親が主体というイメージになりがちですが、そんな中、父親が積極的に子どもたちと関わりを持って活動している皆さんを取材しました。



「おやじの会」ってなに？

ユニークなネーミングで平成21年2月に設立された「おやじの会」。少子高齢化により予想をはるかに上回る早さで児童の減少が進み、学校の活動やP T A活動にも影響が出始め、いろいろな行事も学校だけでは立ち行かなくなっているのが現状です。

そこで、地域の学校を側面からサポートし、住みよい地域づくりを目指して発足しました。

〈おやじの五か条〉

- * 子どもの健やかな成長を願う
- * 人生は人とのつながりだと考える
- * 人脈を広げたい
- * 学校へはなかなか行けないけど、何かみんなでやってみたい
- * 学校の先生とひざを交えて語り合う機会を持ちたい

「飯ごうでおいしいごはんを炊いてみよう」

飯ごうでご飯を炊き、おかずは、山に入り、山菜？雑草？花？を探ってきて、天ぷらと味噌汁を作り、木の枝を削って全員がMy箸を作りました。自分たちで探ってきたものを、自分で作った箸で食べる食事は、普段の何十倍もおいしく感じられたようです。



【子どもたちは・・】

- いろいろな人にたくさんのこと教えてもらつた！
- 自分たちの採った山ブドウの葉やタンポポが食べられてびっくりした！

【お母さんたちは・・】

- 子どもが多くの人たちと話す機会があつて良かったです。
- 帰りの車中、子どもたちがうれしそうで、親子の会話も弾みました。



取材をさせていただき、子どもたちと同じように大人も、学びながら楽しんだ様子が伝わってきました。
地域の大勢の方が集うことにより、子どもたちにも『男女共働』という自然教育、また、エコ教育が行われ、とても充実した活動だと思いました。これからが楽しみですね。



〔取材・編集〕 小林久子 鈴木 恵 阿部文子 石川正美 石原浩一 川口俊成
小日向智 斎藤恵子 関 純子 沼尾幸子 星ゆき子